

光明寺だより

第87号  
令和3年1月発行  
眞言宗 光明寺  
宇都宮市野沢町342  
TEL 665-0545  
FAX 665-5422

眞言宗の教え (No.2)

如実知自心

あるがままに

自分の心を知る

悟りとは何か 眞言宗の根本経典である『大日経』の中には「云何が菩提とならば、いわく、実の如く自心を知るなり」と記されており、「悟りとは何であるかというならば、あるがままに自分の心を知ることである(語訳)」と説いています。私たちは、悟りといえ、ごく限られた者だけが到達することのできる遠い彼方を想像しがちですが、眞言

宗では、自らの心があるがままに知ることであると教えているのです。

今、新型コロナウイルスの影響でたくさんの方たちが不安や恐怖をかかえていることでしょう。誰しもが心の奥底には、仏さまの安らかなる悟りの心があるといます。しかし不安や恐怖が先行してしまい、他者を思いやることを忘れ、自らを戒めることもなく、耐え忍ぶことを知らず、怠惰に過ごしてはおりませんか、まるで月にかかる雲のよう、本来の姿を見失ってはいませんか？

自分の心が、いまどうなっているのか、それを見つめられないと、理想とする仏さま

の安らかなる心には近づきません。月にかかる雲を取り除き、自らの心をそのままに見

つめられるなら、仏さまの悟りの境地に向かうことができるとは、



ご詠歌大会に向けて

# 謹賀新年



新年あけましておめでとうございませう。

今年の干支は辛丑(かのとうし)です。

丑年の人は我慢強くて押しが強い、才気弁舌勝れ正直者、しかし、負けず嫌いで偏屈、悠長に見えるが短気強情。守り本尊は、虚空像菩薩(三十三回忌の仏様です)。

昨年(去年)はコロナ禍で皆さん大変な思いをされたと思います。今年もまだ先が見えません。オリンピックは、景気は…。ただ、救われるのは、インターネットの普及で、情報(情報)の滞りはなく、リモートの普及により、世の中が一変しました。でも飲食はリモー

トできません。宅配、テイクアウトが盛んになり、飲食店は客が遠のき、新幹線もガラガラになってしまいました。私個人も、オンライン(出張や飲み会の機会も少なくなり)オンライン(リモートやメールでやり取り)が多くなりました。

今年こそ、以前の生活に戻り、あちこち旅行に行ったり、美味しいものを食べて経済を回していきたいものですね。



住職記



ご詠歌地区大会の様子

御詠歌

当山は、先代より御詠歌に力を入れております。先代照行和上は前寺庭とともに「睦会」という名前で光明寺支部をたちあげました。昭和五十二年、本堂落慶の二年後でした。当時の講員さん三十名を数え、総本山参り、四国



八十八ヶ所、西国三十三観音、坂東三十三観音、秩父三十四観音を、くまなくまわり、百観音を達成いたしました。境内の弘法大師修行像には、その際集めた御砂を納めてあり、なかなか行けない皆様のために、お大師さまを右から回り、西国、坂東、秩父、四国をお砂踏みすることで、お参りしたと同じ功德を得られます。ぜひお参り下さい。

さて、御詠歌は、詠歌と和讃に分かれていて、宗派によって、唱えかたが違います。私たちの御詠歌は密厳流といいます。

毎月第二第四金曜日午後一時から行っています(現在はコロナ禍の影響で第二金曜日のみとなっています)。

昨年の母の葬儀の際も供養の御詠歌を睦会の皆様に唱えて頂きました。



住職記

ひたすらに

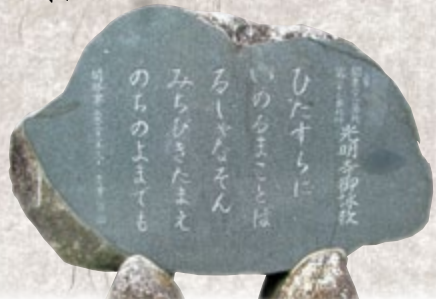
祈る真言

盧遮那尊

導きたまえ

後の世までも

光明寺の御詠歌



御詠歌の魅力

- ① 経文を平易に訳したもので、わかりやすい言葉で、歌のように楽しく唱えることができる。
- ② 巡礼で御詠歌を唱えることで功德が増す、声を出して鈴鉦をふることで健康に良い。
- ③ 検定があり、上達を目指して自己研鑽ができる。(自分のペースでゆっくりじっくり行なっても結構です)
- ④ 全国大会や地方大会、各流大会が有り、同行(同じ志の人)の皆さんとの交流をふかめることができる。(道中、温泉に入り、宴会で英気を養う楽しみもあります)
- ⑤ 旅行と違い巡礼は、先人の知恵により、順路、景色、食事、宿、が合理的であり、一番の功德は心願成就、先祖の供養になることです。



各流大会の様子



ご詠歌練習風景



全国奉詠大会

編集後記

◎ 昨年の施餓鬼、大般若は山内僧侶のみで勤修致しました。除夜の鐘は中止、新春のご祈祷は山内僧侶のみでコロナ禍平癒、諸願成就を祈念致しました。

◎ 昨年より宇都宮仏教会会長をおおせつかりました。三年間の任期を全うしたいと思います。宇仏の行事もコロナ禍の影響を受け、行事が縮小、中止となりましたが、皆様には何か発信できないかと会員同士の思いがつのり、誌上仏教文化講演会となりました。皆様にも一読頂ければと、同封いたしました。



住職記